

Ⅲ 評価し改善するために

1 評価の視点をつくる

<研修の位置付け>

日々の教育実践を振り返るためには、教職員自らが明確な評価の視点をもって取り組み、自己評価することが大切です。

ここでは、教育実践の中核をなす授業を取り上げ、各学校に合った授業観察をする視点について考え、授業観察の視点を作成しましょう。

【目的】授業を観察する際の全教職員に共通した観察の視点を作成し、授業改善に生かす。

【到達点】全教職員が児童生徒の現状を踏まえ、各教科に共通した授業観察をするための視点を作成する。

【準備物】模造紙 **授業観察の視点作成シート** (p. 18) 付箋紙 マーカーペン

【進め方】(60分)

1 授業観察における視点を考える

- ・ 個人 自校の児童生徒の現状を踏まえ、授業を観察する際に必要と思われる視点(10分) (例:「多様な考えを導く発問をしている」「児童を揺さぶる発問をしている」)を1枚の付箋紙につき一つ書く。(できるだけ多くの付箋紙に書く。)その際、学校として重点化した取り組みを見取る視点を基に考える。

2 観察の視点を観察場面ごとに分類し、重要と思われる観察場面を決定する

- ・ グループ ① 個人で考えた観察の視点を模造紙に貼りながら、一人ずつ書いた内容について説明する。(30分)
 - ② 付箋紙の意見を分類して集まりをつくり、それぞれの集まりがどのような共通性でまとめられるか分かるように標題を付け、それを観察場面とする。(p. 18の上の図)
 - ③ 目指す児童生徒の姿に近づくために、どの観察場面が重要か協議し、重要度が高いと思われる順を決める。
 - ④ 授業観察の視点作成シートの「観察場面」の欄に、重要な順に1番から5番までを書く。
 - ⑤ 五つの観察場面について、①の付箋紙の内容を検討し、最も重要と思われる付箋紙の内容を、それができているのかできていないのか評価できるような表現に改め、授業観察の視点作成シートの「教職員」の欄に一つずつ書く。
 - ⑥ 教職員の観察の視点に対応した児童生徒の観察の視点がある場合は、併せて協議し、「児童生徒」の欄に書く。

※ 学校全体として、授業改善に取り組む雰囲気を醸成するためには、教科に関係なく、グループを編成することが有効です。

3 授業観察の視点を共有する

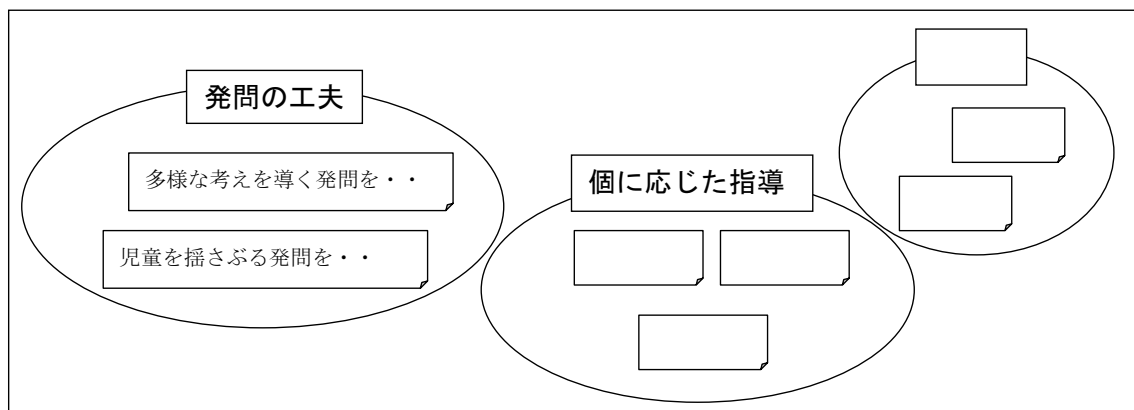
- ・ 全体 ① 各グループの授業観察の視点作成シートから、観察場面について傾向を示す表(縦の欄:優先順位 横の欄:グループ名)を黒板等に作成する。(15分) (p. 18の下図)

- ② 各グループで優先順位の根拠を説明するとともに、観察の視点について説明する。
- ③ 進行役は、全体の傾向と学校として重視したい点について確認する。それに対する協議を行い、共有する。

4 個人で振り返る

(5分) 研修を自己評価し、研修で共有した評価の視点を基に、今後どのように授業改善に生かすのか、具体的に書く。

(例) 観察の視点を基にした観察場面



授業観察の視点作成シート

観察対象 観察場面	教職員	評価	児童生徒	評価
(例) 発問の工夫	多様な考えを導く発問をしている。		多様な考えを発表している。	
(例) 個に応じた指導	机間指導を行い、児童生徒の学習状況を把握して、個に応じた指導・助言をしている。			

※ 評価欄については、A, B, C, Dの4段階で評価したり、できているところに○をつけたり、自由に文章を書いたりするなど、記入方法を明らかにしておくことが大切です。

(例) 観察場面について傾向を示す表

優先順位	a グループ	b グループ	c グループ	d グループ
1	個に応じた指導	個に応じた指導	教材の工夫	発問の工夫
2	発問の工夫	発問の工夫	個に応じた指導	
3	教材の工夫	板書		